

果 樹

【りんご】

1 雪害への備え

腐らん病等の被害部分や発生角度が狭い枝などの折れやすい枝には、予め支柱をあてがうか、ボルト等で補強しておきます。もし、剪定時に除く枝であれば、降雪前に処理しましょう。

2 凍害対策

わい化栽培（特にM.9自根樹の新わい化栽培）では、M.9台木部が凍害を受けて枯死する樹が発生しやすいので、わら巻きを行うか、遅くも12月中に地際から接木部の上30cm程度まで白塗剤を塗布します。白塗剤は1年経過すれば剥がれ落ちてしまうので、毎年塗るようになります（写真1）。



3 野ねずみ対策

わい性台木のJM系台木やM.9は野ねずみの被害を受けやすいので、野ねずみが住みにくい環境を作ることが重要です。畦畔の草刈りを徹底し、樹冠下の敷きワラを除去します。特に被害が多い園では、幹周囲0.5～1m程度の草を除去し、樹幹の地際部に金網などを巻いてねずみの食害を防ぎます。また、苗畑等に使用したポリマルチは取り除き、わら等有機質を堆積しないようにします。園内のりんご果実等は野ねずみの絶好の餌となるので放置しないようにしてください。



写真1 わら巻き、白塗剤塗布による防寒対策の様子

4 黒星病、褐斑病対策の落葉処理

本年、黒星病、褐斑病が多発した園では、病原菌の越冬量を減らすことが重要です。可能な限り落葉を集め、土中に埋没するか焼却処理しましょう。

【ぶどう】

1 雪害への備え

ぶどうは他の果樹に比べ雪害に弱いので、降雪前に太い枝や不要な枝などをおおまかに間引くせん定（あら剪定）を行います。特に、短梢栽培では少しの降雪でも棚が潰れてしまう事があるので、雪が降る前に、新梢を30cm以下に残して切除し棚が潰れないようにしましょう（写真2）。

棚がゆるんでいると、雪害の危険性が高くなりますので、あらせん定が終わらない場合や豪雪が予想される場合は、幹線の交差部分に支柱をしておきます。その際、幹線や支柱アンカーの腐食がないか点検し、補修を行ってください。



写真2 短梢栽培のあら剪定

2 主幹部の防寒対策

凍害が原因と思われる枯死が毎年の様に多数報告されています。防寒対策や根頭がんしゅ病の予防のために、12月になってから主幹部は必ず5cm以上の厚さで稲ワラを巻きます。若木は必ず実施してください。

更に、雨水が入らないように上部をビニール（温度の上がない反射マルチ等）や肥料の空袋で覆います。なお、主幹部の地際部は盛り土をします（図1）。

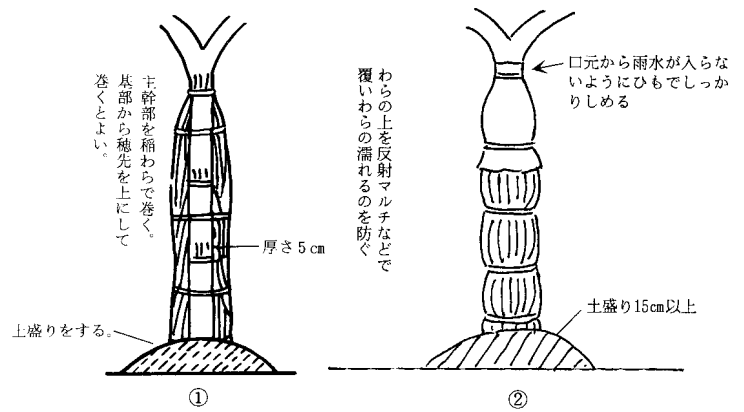


図1 稲ワラによる主幹部の防寒

【もも】

1 凍害対策

若木の樹体凍害による枯死が近年増加しています。12月になってから主幹部は必ず5cm以上の厚さで稲ワラを巻きます。若木は必ず実施してください。